

## 新党日本代表 田中康夫 質疑

2010/09/30(木) 9:17~9:22

第175回国会(閉会中審査)

### 衆議院予算委員会

尖閣諸島を巡る問題等についての集中審議



さあ、信じられる日本へ。

新党日本

nippon-dream.com

○松原委員長代理 次に、田中康夫君。  
○田中(康) 委員 与党統一会派、国民新党・新  
党日本の田中康夫です。

今回の屈辱的迷走、それを生んだPL法で規定するそもそもの製造物責任者、現在は外務大臣を務める前原誠司さんに、全国津々浦々の国民が、のみならず多くの民主党国会議員も疑問を抱く点をお尋ねします。

産経新聞は、今月二十五日、政治部記者の署名記事でいち早く見抜きました。那覇地検は二十四日、尖閣衝突事件で逮捕した中国人船長を処分保留で釈放すると突如発表、このような中国への屈服は一地検が下せる決定ではない、外遊中の菅直人首相と前原誠司外相、留守居役の仙谷由人官房長官らの政治判断による指揮権発動に決まっている。指揮権発動、何とも見逃せない物騒な言葉です。

西岡武夫参議院議長も二十七日、読売新聞のイ

ンタビューで、政府首脳に何の連絡もなく那覇地検が釈放するはずがない、那覇地検に責任を負わせるという形はこそくだと述べています。

事実、地元の琉球新報も、勾留期限まで五日間も残る中、供述拒否に転じた被疑者を釈放する異例の措置をとった那覇地検の次席検事は、会見で資料をめくりながら言葉を選ぶように説明したと、いわゆる政治介入をほめかしています。

その沖縄では、中国ツアーのチャーター便が相次いで中止になり、県内観光業にも甚大な影響が及んでいます。前原さんは、国土交通省外局の観光庁を所管する大臣でもありました。

今回の屈辱的迷走のそもそもの発端は、九月八日午前二時三分に船長を海上保安庁が逮捕したことから始まっています。当時、海上保安庁を所管する国土交通大臣だったあなたは、船長を逮捕した第一報をいつどこで報告を受けましたか。また、領海侵犯や違法操業、入国管理法違反という王道でなく、公務執行妨害といういわば禁じ手の霸道で逮捕に至った初動の判断ミスはだれが下したのでしょうか。

私の持ち時間はわずか五分でございます。客観的事実のみ、簡潔にお答えください。

○前原国務大臣 尖閣周辺というのは漁場でございます。中国の漁船のみならず、台湾の漁船も日常茶飯事で操業しております。

私も国会議員になってから三度、海上保安庁の飛行機で上空を飛んで、そしてどのような状況かというものを見てまいりましたけれども、要は、日常茶飯事、領海内に入ってきて、それを海上保

安庁が追い出すということをやって、立入検査も何度も行われている。ことしに入ってから十回以上行われているというふうに思いますけれども、今回の事案は、言ってみれば、海保の船に体当たりをして、ともすれば海保の船が沈没をしかねないような悪質な事案であったことから、公務執行妨害ということで逮捕されたということでございます。

○田中(康) 委員 少し不思議ですね。逮捕すべしとゴーサインを出したのはあなたではないのですか。

二十八日付朝日新聞は、「前原氏「おれが逮捕決めた」と大見出しを打って、朝刊第一面から特集を組みました。官邸がひよっていた、逮捕を決めたのはおれだ、この対応は間違っていないと周囲に自信をのぞかせたと書いています。すなわち、この報道によれば、屈辱的迷走の製造物責任者はあなたになってしまいます。

しかも、船長釈放に動いたのは仙谷官房長官と前原外相だったと二十五日付紙面で報じた読売新聞によれば、あなたは釈放する半日前の段階で、既に、間もなく解決するからとヒラリー・クリントン国務長官に伝えたと同行記者団にニューヨークで自信たっぷり語っていたらしいです。

ところが、釈放後の二十八日、東京の外務大臣会見で、あなたは一転、ビデオを見る限りにおいては悪質な事例、事案であるとの意見を海上保安庁に申し出た、国交大臣だった私に逮捕権はない、逮捕権があるのは海上保安庁と居直っていらつしやいます。国内法に基づき粛々と対処すべきと筋

論を展開してきたあなたは、いついかなる理由でこのように変更されたのでしょうか。

あなたは外務大臣として、今回の問題解決に向け、主体的に取り組まれたわけですね。外務大臣として、知りませんでは許されません。まさかこの問題から外されたわけでもない。それについても、なぜ半日前に釈放という確信を持っていらつしやつたのか、極めて不可解であります。

いいですか、私たちは、検察主導ではなく、政治主導であつてこそ、国民の信頼を、日本の国益を勝ち取れると私は考えております。そのためにも、リーダーは、なかならず政治家には、的確な認識、迅速な決断、明確な責任、哲学と覚悟が必要であるうと思ひます。大言壮語して、責任は現場に押しつける、これでは政権交代に期待した国民が泣くと私は思ひます。

この点を申し上げ、わずか五分であります。与党統一会派、国民新党・新党日本の私の質疑を終わらせていただきます。

○松原委員長代理 答弁は求めますか。

○田中(康) 委員 結構です。

○松原委員長代理 これにて田中君の質疑は終了いたしました。